

「愛と平和のちひろカレンダー」愛媛の被災地へ届けました

7月の西日本豪雨災害に際し全国から日本原水協に寄せられたカンパを愛媛にもいただきました。どういう形でお届けしたらいいかを平和行進の実行委員会で話し合い、吉田・肱川・野村・宇和地域の仮設住宅にお住まいの方に、ちひろカレンダーを贈ることにしました。



大洲では地元の新婦人大崎さんに道案内していただき肱川の大駄馬ふれあい広場の仮設住宅では15軒中8人と対話、徳森公園では45軒中12人とお話しすることができました。大洲出身で実家が被災したお笑いタレントの「バンビーノ」さんが「ひめころん」「フジノミヤ」の方々と集会所を訪問されていて、芸を見せていただいた後、少しお話して記念撮影しました。

12月9日、愛媛原水協の片岡事務局長の運転で本藤と新婦人の渡部則子さんとが南予に向かいました。吉田の仮設住宅では15軒のうち7軒が在宅で、「家は土砂が入って避難したが今はボランティアの宿泊所になっている。県外の息子が『おいで』と言ってくれるが住みなれた吉田にいたい。」「カレンダーはなかったのうれしい。かわいい。」と喜ばれました。



12月12日は片岡・本藤と平和行進事務局長の渡部玲子さんとで、平和行進訪問日が豪雨災害当日にあたったため訪れることのできなかつた愛南町と宇和島市を訪問し、愛南町清水町長、宇和島市市長公舎の方と懇談し、カレンダーを差し上げたところ大変喜ばれました。宇和島市の訪問には地元原水協の加勢山さんがお付き合いくださいました。また、野村の乙亥会館隣の「百姓百品」店舗を訪問し、代表の和氣數

男さんから被災当時の状況やその後に結成した「野村の未来を守る会」、12/10に開いた「野村ダム放流の説明を聞く会」などについて詳しくお話を聞きました。ダムの緊急放流では通常の6倍の量の水が一気に流れ、肱川があふれ、町内で5人が亡くなり850戸が床上浸



水しました。放流のあり方、警戒と避難指示、河道掘削や堤防整備など、今後も問い続け声を上げて「安心して暮らせる野村町」にしたいと話されました。店舗や工場、仮設住まいのお子さん宅などへカレンダーを3本差し上げ、大変喜ばれました。

12月14日は片岡と本藤の他に宇和新婦人の大森さん、赤旗記者の宮内さんと共にまず、西予市社会福祉協議会本所を訪ね、職員さんらも同行して下さり、野村運動公園の仮設住宅集会所で開かれているホットカフェへ。

曹洞宗の僧侶青年会とボランティア団体シャンティさん、地元のボランティアが協力して運営しているようで、この日はボランティア含めて25の方が集まり羽子板飾りを制作していました。



有名な野村の乙亥相撲の世話役さんも仮設住宅暮らしでちょうどお目にかかることができ相撲のお話をなども聞かせていただきました。ここの仮設住宅は大きくて、72軒が入居しているそうです。カフェでお目に掛かれなかった方の住まいを個別に訪問してあわせて25の方と対話ことができました。



地域のきずなの強さを感じ、たくさん元気をもらいました。



午後からは野村児童館・幼稚園・そして水害から避難して来て地域の教育複合施設の二階に間借りしている保育所を訪問しました。保育所は運動公園に仮設の保育園が設置され、今月 25 日が開所式です。



宇和（旧明間小学校）の仮設住宅でもホットカフェを開設していました。こちらでは年配の方が塗り絵をしたり、足湯をしたり、ちょっとデイケアセンターのような雰囲気でした。25 件の住宅を訪問したけれどお目に掛かれたのは 5 人でした。大森さんのお話では、危険区域なので避難して来てはいるけれど、家屋が全壊してしまったわけではない方は（ただ、水回りが復旧していないので、お風呂や洗濯の為）自宅と行き来しているそうです。大森さんは実家が野村町で毎日お母さんの所へ来

ているようでどこへ行っても知り合いがいておかげでたいへん会話が弾みました。

災害から半年、まだまだここに爪痕が残っています。でも、みなさん前向きに明るく過ごしていらっしゃるように見えました。そして、今回の訪問で一番感じたのは地域のきずなの強さです。



「愛と平和のちひろカレンダー」を被災地に贈る運動（募金）にご協力ください
郵便振替用紙または、郵便振替口座（00110-9-1780原水爆禁止日本協議会）に**被災地カレンダー**と明記してお振込みください。